

全体 貸借対照表 (BS)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	39,911	固定負債	7,809
有形固定資産	35,338	地方債	5,836
事業用資産	20,930	長期未払金	0
土地	10,437	退職手当引当金	1,952
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	27,480	その他	21
建物減価償却累計額	-17,956	流動負債	1,286
工作物	3,816	1年内償還予定地方債	842
工作物減価償却累計額	-2,847	未払金	0
船舶	0	未払費用	0
船舶減価償却累計額	0	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	153
航空機	0	預り金	291
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	0	負債合計	9,095
インフラ資産	14,248	【純資産の部】	
土地	5,011	固定資産等形成分	44,891
建物	157	余剰分(不足分)	-7,946
建物減価償却累計額	-88		
工作物	26,434		
工作物減価償却累計額	-17,507		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	241		
物品	1,361		
物品減価償却累計額	-1,201		
無形固定資産	0		
ソフトウェア	0		
その他	0		
投資その他の資産	4,573		
投資及び出資金	608		
有価証券	0		
出資金	608		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	758		
長期貸付金	0		
基金	3,293		
減債基金	0		
その他	3,293		
その他	0		
徴収不能引当金	-86		
流動資産	6,129		
現金預金	832		
未収金	317		
短期貸付金	0		
基金	4,980		
財政調整基金	4,879		
減債基金	101		
棚卸資産	7		
その他	0		
徴収不能引当金	-7		
資産合計	46,040	純資産合計	36,945
		負債及び純資産合計	46,040

全体 行政コスト計算書(PL)

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	17,728
業務費用	7,072
人件費	1,972
職員給与費	1,671
賞与等引当金繰入額	153
退職手当引当金繰入額	19
その他	129
物件費等	4,602
物件費	3,257
維持補修費	90
減価償却費	1,255
その他	0
その他の業務費用	498
支払利息	42
徴収不能引当金繰入額	88
その他	368
移転費用	10,656
補助金等	8,609
社会保障給付	1,676
他会計への繰出金	367
その他	4
経常収益	656
使用料及び手数料	204
その他	452
純経常行政コスト	17,072
臨時損失	0
災害復旧事業費	0
資産除売却損	0
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	17
資産売却益	9
その他	8
純行政コスト	17,055

全体 純資産変動計算書(NWM)

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	37,332	45,957	-8,625
純行政コスト(△)	-17,055		-17,055
財源	16,641		16,641
税収等	11,056		11,056
国県等補助金	5,585		5,585
本年度差額	-414		-414
固定資産等の変動(内部変動)		-650	650
有形固定資産等の増加		500	-500
有形固定資産等の減少		-1,255	1,255
貸付金・基金等の増加		109	-109
貸付金・基金等の減少		-4	4
資産評価差額	0	0	
無償所管換等	27	27	
その他	0	-443	443
本年度純資産変動額	-387	-1,066	679
本年度末純資産残高	36,945	44,891	-7,946

全体 資金収支計算書(CF)

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	16,319
業務費用支出	5,665
人件費支出	1,954
物件費等支出	3,348
支払利息支出	42
その他の支出	321
移転費用支出	10,654
補助金等支出	8,607
社会保障給付支出	1,676
他会計への繰出支出	367
その他の支出	4
業務収入	17,079
税収等収入	10,971
国県等補助金収入	5,497
使用料及び手数料収入	205
その他の収入	406
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	760
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,176
公共施設等整備費支出	500
基金積立金支出	506
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	170
その他の支出	0
投資活動収入	1,062
国県等補助金収入	67
基金取崩収入	814
貸付金元金回収収入	172
資産売却収入	9
その他の収入	0
投資活動収支	-114
【財務活動収支】	
財務活動支出	968
地方債償還支出	968
その他の支出	0
財務活動収入	292
地方債発行収入	292
その他の収入	0
財務活動収支	-676
本年度資金収支額	-30
前年度末資金残高	550
本年度末資金残高	520
前年度末歳計外現金残高	275
本年度歳計外現金増減額	37
本年度末歳計外現金残高	312
本年度末現金預金残高	832

全体財務書類に係る注記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産

取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの

再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの

取得原価

取得原価が不明なもの

再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産

取得原価

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的有価証券

該当ありません

② 満期保有目的以外の有価証券

該当ありません

③ 出資金

ア 市場価格のあるもの

該当ありません

イ 市場価格のないもの

出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による低価法

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）

定額法

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）

定額法

③ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンスリース取引を除きます。）

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金
該当ありません
- ② 徴収不能引当金
未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。
長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金
退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち大泉町へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。
- ④ 損失補償引当金
履行すべき額が確定していない損失保証債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。
- ⑤ 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

- ① ファイナンス・リース取引
 - ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
 - イ ア以外のファイナンス・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引の処理
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 全体資金収支計算書における資金の範囲

手許現金及び要求払預金を計上しています。なお、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2 重要な会計方針の変更等

該当ありません

3 重要な後発事象

該当ありません

4 偶発債務

該当ありません

5 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

- ① 全体財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

公園墓地事業特別会計

国民健康保険事業特別会計

後期高齢者医療事業特別会計

介護保険事業特別会計

下水道事業特別会計については、地方公営企業法の適用に向けた作業に着手しているため、連結対象から除いてあります。したがって、一般会計等における他会計への繰出金等が内部相殺されておられません。

- ② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。
- ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。